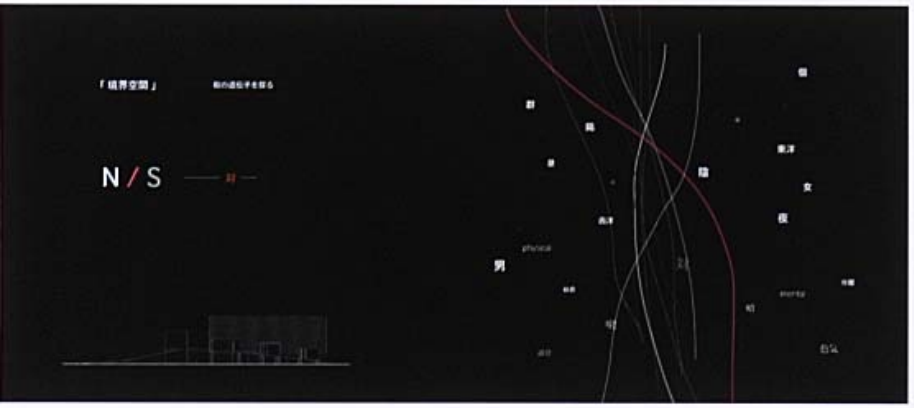
「境界空間」 和の造形手法

N/S



1階に木綿1組・学生2×6棟の集合住居、ギャラリー、集会場。
かつて城下町であった当地には、城を取り巻く堀が今でも多く存在する。
この場所にも、その堀の一部が通っていた。

堀は城と街を分け、上と下、内と外、表と裏、緑と黒、うわべと本質、中心と周縁、アンチノミーの世界を創っていた。
これは「N」の壁により分けられた境界空間である。